

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者、職員全員で地域の中で、暮し続ける事を支える為の理念として 1 地域の皆様の協力を得ながら、その人らしい日常生活が送られるよう支援します。 2 ご利用者の思いを大切に安心して暮せるよう支援します。 3 社会福祉法人として、「慈善・教育・博愛」の精神を忘れず地域へ貢献出来る様努めます。 を作り上げた。	○	利用者が好きな事を、好きな時に、好きなだけ、をモットーに地域とのふれあいなど、関係性が持続出来る様継続して行って行きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングやケースカンファレンスの際に、理念に基づきながらケアの方法を検討し意見の統一を図っている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会、運営推進会議等で、理念の説明を行い理解して頂くようにしている。	○	地域への理念の浸透を図る為に、今後も運営推進会議等を利用し説明を行って行きたい。
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域ボランティアの来苑により近隣との繋がりがあり、また買い物の中声をかけてくださる方もおられる。	○	いろいろな面で協力して頂く事がある為、関係性を築いていく為の活動（行事）の案内やチラシ等の配布を検討して行きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入、地域の祭り等に参加、又老人福祉会館でのふれあい喫茶等への参加や、毎年納涼祭をグループホームが企画し地域の方に参加して頂くなど交流をしている。又学生の福祉体験等の受け入れを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者への暮らしに役立つ事を職員で話すことはあるが、貢献には到っていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を職員に伝え、サービスの質の向上に努めている。	○	ハード面については、対応困難があるが、利用者の対応については、指摘された所は職員で具体案を検討し改善を図っている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	行事報告や運営に関する事などの意見交換を行いサービスの中に取り入れている。	○	地域の行事に声をかけて頂き参加するようにしている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入所者の中に生活保護の方がおられ、支援課の方との交流があり、入居者の生活相談、入居者紹介、等がある。又事故等の問題があった時報告している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の判断能力により、必要時は成年後見人制度の利用など、利用者代理人と相談するなど行っている。	○	人権研修等を利用し、職員のスキルアップを行う
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の言動や行動に暴言や暴力がないか、職員間で注意しながら、防止に努めている。	○	ケアの上で、言葉の掛け方や、対応について、虐待や権利侵害を行っていないか等、話し合いを行いながら、振り返りや指摘をお互いに行き行く。又研修などへ参加する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る限り懇切丁寧に不安や疑問などの対応を行う努力をしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口の設置や、常会を毎月開き、意見を言えるよう配慮しているが、意見の出ない事のほうが多い為、日常の会話の中より不安や、不満などを訴えた時に検討し対処している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回、ご利用者の暮らしぶり、健康状態の報告や行事・金銭出納(前月分)を書類で郵送、また家族面会時には近況の報告、必要時は電話にて報告等行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、市町村窓口の説明、面会時等声をかけやすい様に配慮している。年1回の家族会で意見を出しやすいように配慮している。また出された意見は、ミーティングで報告や内容によっては検討し、家族へ結果報告等行っている。	○ 以前家族の意見より、職員の顔と名前が一致しないと言う事で、職員の写真を掲示した。今後家族の不安や苦情等の意見についても運営推進会議などで検討し、サービスに反映して行きたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議の中で職員の意見を聞きながら対応し、反映している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	前もって解っている事などに対しては対応しており、急な場合でも可能な限り勤務調整に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度も職員の異動があり、1名の離職により、男性1名、ケアマネージャー男性1名の入職、異動があり、利用者へのダメージを防ぐ為、馴染みのスタッフと新人を組んで、コミュニケーションを図ったり、家族に対しては壁新聞にて紹介したり、と配慮している。	○	職員の離職、異動については、可能ならば前もって利用者、家族に説明し、利用者へのダメージを考えて、今後についてもなるべく顔なじみの職員が対応できるよう支援する。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修においては、経験年数、研修内容等考慮しながら職員が交代で、参加出来る様配慮している。又研修報告書を作成し、職員が閲覧出来る様にしている。日常業務の中で解らない事や、対応、方法について、現場で説明しながら、指導を行っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会・研修などに参加した際、意見交換行っている。西成区のグループホーム見学会等で行う意見交換などは、参考になる事多く、質の向上に取り組んでいる。	○	他施設見学も、これからも継続して行い、サービスの向上や、業務の簡素化に努めたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	何でも話してもらえぬ雰囲気づくりをし、親身になって話を聞いてあげ、適切な処理をする努力をしている。又個人の趣味などの活動への参加はストレス解消になる為、休みの調整を行っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員は日々のリーダーや、各自居室担当や各係りなどを決め責任を持って仕事をしている。又会議などでは、全員から意見を聞き、モチベーションを上げる為、研修などへ参加している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談時に本人の求めている事を出来るだけ聞いたり、質問に解りやすく答えるようにしている。又見学出来る様であれば、見学して頂き、現状を見ながら、本人の言葉や表情などを確認し受け止めるよう努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話での入居相談時は、家族の質問などについて答えるようにしており、なるべく見学を勧めている。見学される事で安心したり、具体的な質問になったりするので、家族の不安や求めている事など情報の提供や対応なども説明しやすい。十分な時間をとり相談して頂けるよう努力している。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を出来るだけ受け止め、必要に応じて社会資源を家族にアドバイスしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	前もって見学して頂き、雰囲気を感じとっていただいたり、本人や家族より情報を収集しサービス提供へ繋げている。	○ 利用者が利用開始前より職員が、訪問する機会を増やしたり、何度か訪問していただき、馴染んで頂くなどの検討をしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意とすることへの取り組みを行ってもらいお互いに感謝して頂く事や、職員が利用者より生活の知恵など教えて頂いたり、お互いを思いやる心、助け合いの精神を大切に、支えあう関係を築いている。	○ 利用者の出来る事をして頂く事の継続

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子を面会時や便りで報告し、利用者の思いや状態を理解して頂きながら、共に考えて頂いたり行事に参加を呼びかけるなど、働きかけを行っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族へ本人の状況報告を随時行いながら相談やお手伝い頂けることは協力して頂いたり、家族の面会の頻度が減ったりしないように、利用料金の支払いは現金にさせていただいたり、行事への参加の呼びかけなどしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、友人の来苑や、電話での会話など行っている。親族、友人来苑時は居室でゆっくりお話して頂けるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者さんに、掃除や洗濯、食事準備等に参加していただき、お互いの存在を認め合い、支えあえる様支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された方でも、継続的に関わりを必要とする方には、連絡のやり取りを行ったりと関わりを継続している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、表情や会話の中より、思いを受け止めたりしている。家族より情報を得たり、家族と共に話し合ったりしている。困難時は本人本意で支援行っています。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にこれまでの暮らし方を生活シートへ記入して頂き、サービス利用の経過などの把握に努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の申し送りや、日々の出来事ノートより、本人の現状の把握を行っている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で、本人の思いや要望を聞き、また家族の思いや要望等確認しながら、職員同士の意見交換やカンファレンスを行い作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態像の変化などで変更の必要時は、本人や家族への説明と要望を確認し検討しながら変更している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を詳細にし、気づきや工夫を話し合い、情報を共有し、実践の介護計画の見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	生活支援の中で特別にニーズが発生した場合支援している。(かかりつけ医との連携)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	各クラブ活動等は地域のボランティアの方の協力を得ながら行っている。年2回の消防訓練は消防署の協力を得ながら行っている。又本人の意向で、図書の貸し出しを受けたり、地域の学校の福祉体験の場ともなっている。	○	地域資源の把握に努め、参加や協力依頼等行いたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	殆ど行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	金銭管理の困難な方に対し、あんしんサポートの利用を行っている。	○	今後必要時は権利擁護事業の相談や依頼をしたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週かかりつけ医の往診を受けている。通院や入院については、緊急時以外は、家族の希望を確認しており、家族が通院介助出来ない時等は対応をしている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科Drの定期往診をして頂き、症状の方向や、対応について相談している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日々職員として看護師資格者が常勤しており、健康管理、支援を行っている。又週1回訪問看護を受けている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入院時は、医師、看護師、家族よりの状態確認や面会など行い、情報確認や退院後の対応確認を行うなど連携している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度者やターミナルの受け入れは行っていないが、家族、かかりつけ医・職員がなるべく早い時期に対応について話し合いを設け、安心して暮せるよう努めている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度者やターミナルまでの受け入れは考えておらず、ハード面からも対応は困難である。しかし利用者が生活する中で、認知症やADLの状況の変化については、主治医に随時報告しており、対応や対処について話し合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移動前より利用者の情報提供を充分行い、利用者の心身の状況や家族関係についてケア関係者へ説明し、利用者を充分理解した上で受け入れて頂けるよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者が嫌な思いをしない様、言葉掛けや対応の配慮など行っている。記録などの情報については鍵のかかる所で保管している。	○	職員が、利用者を理解し、プライドや誇りを傷つけない言葉掛けや対応を今後も学んでいく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定しやすいようわかり易い言葉で説明したり、時間をかけて説明を繰り返したり納得しやすいよう配慮している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活スケジュールの中で、一人一人のその日の体調や様子をみながら、その日その時の本人の気持ちを尊重し出来るだけ個別性のある支援を行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	1ヶ月に1度ボランティアの方に施設に来て頂いて理美容を行って頂いている。毛染め等希望される方には、希望に沿って対応し、行事等の時は女性利用者は、口紅を塗って頂いたりとお洒落を楽しんでいただいている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	様子を見ながら声かけし、できるだけ参加して頂けるよう努めて行きたい。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		一人一人の趣味や特技などに応じて、能力を発揮して頂けるような事（裁縫、園芸、生け花、折り紙など）をお願いしたりしている。又野菜や花などを植える事で、日々の手入れをし、成長や収穫を喜んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金の所持を希望される方はいないが、外出行事等で出かけ、お土産を購入される時は、個人財布より支払いできるような支援をしています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節を肌で感じてもらい、心身の活性に繋がるよう日常的に散歩、買い物などに出かけている。希望によって図書館に出かけたりもしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の希望を聞きながらの外出行事（苑外レク、観劇、外食）など行っている。バスによる日帰り旅行を企画し、家族と共に出かけられるよう立案し、秋に実施予定。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前は手紙の交換を行っていたが、現在は勧めても書こうとせず、字自体も忘れており、書けない状態である。電話をかけることもたまに勧めるがかけることはない。家族からかかってきた場合は対応できる方もいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人、馴染みの人の訪問については何時でも気軽に訪問して頂いている。来苑時はゆっくりできる様、場所の提供、言葉がけを行い支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書の中にも身体拘束については、原則行わないことを盛り込んでおり、拘束を行わないケアに取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上玄関に鍵をかけているが、日中は鍵をかけない事を原則としており、職員が見守りをしながら、連携をとり利用者の様子を見ながら、状況によっては散歩に出かけたりと無断外出を予防する対応をとっている。やむを得ない場合に限り施錠をしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の居室のガラス窓には個人のプライバシーに配慮しのれんをかけている。訪室の場合はノックをして入室し所在や様子を把握、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	消毒などの危険物は倉庫にて保管、常時は手洗い石鹸や食器用洗剤などのみとし、夜間帯にては、包丁や鋏、ナイフ等は鍵のかかる場所に保管、日中それらを使用する時は職員が付き添い見守っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の状態を把握し職員がそれを共有しリスクを回避するよう対応策を話し合い、事故予防を行っている。	○	リスクマネジメントについて学ぶ機会を増やし、利用者の状態観察での気づき、気配りを増やしていく。また情報や対応の共有の強化。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急処置など定期的な訓練は行っていない。初期対応はマニュアルどおり行動できる様にしている。	○	応急処置や急変時の対応の勉強会の開催や講習会への参加。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルの作成、消防訓練の実施。自治会にお願いしたり、運営推進会議で協力を呼びかけている。火災等は、防災訓練を2ヶ月に1度夜間想定で行っている。又防災頭巾も一人一人ベッドサイドに備えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人一人に起こり得るリスクについて、家族にケアプランを持って説明し、見守り、介助の強化を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の体調変化については、常に気配りし変化があれば、本人の症状の確認やバイタル測定を行い、情報を共有し対応している。必要時は主治医への報告を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援については大切な薬の服用内容・副作用等理解するように努めている。また各利用者の服薬内容・薬の副作用がいつでも確認できるように処方の説明書を保管している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の予防と対応の為飲食物の工夫（繊維質・ヨーグルトなど）や運動（散歩・体操）などに取り組んでいる。何時でも水分摂取ができる様各テーブルの上にはお茶を準備している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけや介助を行い口腔衛生に努めている。また外出後や食事前のうがいの励行をしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量については毎食チェック表に記入し、残食の把握をし、嫌いなものか、食べにくかったか等の把握をしている。水分摂取についてはこまめに声かけを行い水分確保に努め、摂取量の少ない方については職員が情報を共有しながら、工夫するなどして対応。現在は水分については記録に残していない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し対応必要時実施。来苑されるボランティアの方や家族、その他の方についても手洗いやうがいを行って頂いている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の衛生管理（十分な洗浄、乾燥）を行い、食材についても新鮮で安全なものを購入し、冷所保存や賞味期限の確認を行いながら管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには草花を植え、休息できる様長椅子を置くなど、安心して出入りしやすい様にしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が落ち着くよう季節の花などを飾ったり、フローア飾りなど配慮している。また天窓など利用者が眩しくないようすだれを使用、食事の準備の音や、御飯の炊ける臭い、心地よい音楽を流すなど工夫している。	○	生活感や季節感を感じて頂きながら気持ちよく生活して頂けるよう継続して行っていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には、ダイニングやリビング・喫煙場所などがあり、一人一人好きな所でくつろがれている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	利用者が好きな物・大切にしている物や馴染みの 物を使用して頂き、本人が安心して居心地良く生 活できる様工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	換気については、朝の起床時・掃除時や空気のだ よみがある時などに行っており、なるべくこまめ に行う様注意している。温度調整については、外 気温と5度以上差がないよう配慮し、利用者の声 も聞きながら温度調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	出来る限り安全な環境への工夫や配慮をしてい る。(廊下の共用部分には手摺が設置されてお り、移動歩行しやすいようになっている)	○	利用者の自立への支援として常に検討して行き たい
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	混乱や失敗を防ぐ為に、きめ細かい声かけや誘 導、介助を行ったり、場所を示す表示などを使用 し工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	建物周囲は、狭いが花壇や庭があり、草花や野菜 を植え、夏場は毎日の水やりなどを行いながら植 物の成長の観察や収穫を楽しんでいる。また苑庭 にて夕涼みなどしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入浴が週3回になった事による行事の縮小は行わず、月1回の苑の行事、2週間に1度のコーラスボランティア来苑、月1度のちぎり絵、習字、手芸、地域の行事への参加でふれあい喫茶、苑庭においては草花を育て玄関に生け花をしたり、野菜を育て、食卓に載せたりしている。特に本の好きな方等、区の図書館へスタッフ同行し図書を借り、本人の思いを実現している。又雨が降らない限り利用者の方と共に散歩にも出かけている。家族の施設訪問についても特に時間を定めておらず、気を使わないよう配慮している。